

1. 協議会名称 カムイ大雪バリアフリー推進協議会

代表者 吉田 貴彦

2. 実施箇所 北海道旭川市

3. テーマ

積雪寒冷地における都市拠点と旭山動物園を結ぶ歩行者移動支援サービス

4. 提案内容

【情報提供の対象者】

高い者、障がい者、妊産婦、子連れベビーカー等の介助者も含む来園者

【提供するサービス内容】

寒冷期等の歩行困難から低体温化による不測の事態を回避できる安全な逃げ場案内、現地バリアフリー情報の事前紹介、シームレスな徒歩移動経路の案内、周辺の観光情報を提供

【場所情報コードの活用方法】

拠点間の移動と拠点周辺の散策の際の情報提供に活用

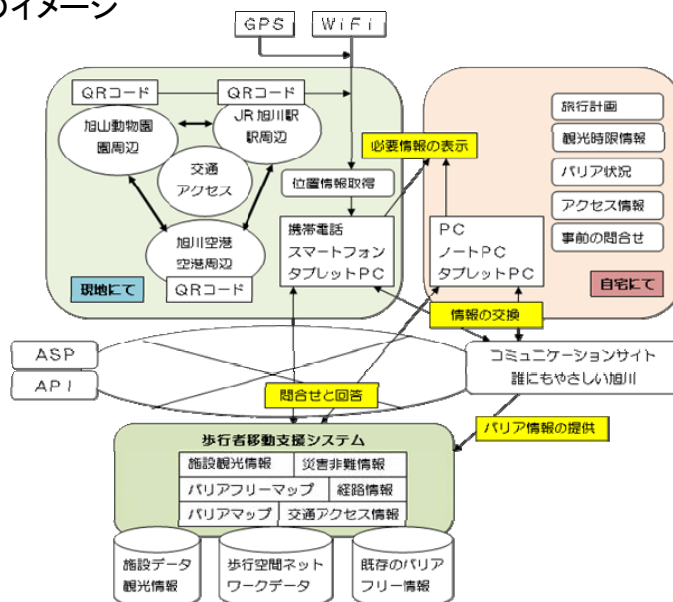
【歩行者の位置特定方法】

GPS、WiFiからの位置情報の取得と本事業で設置するQRコードからの位置情報を取得

【歩行空間ネットワークデータの活用方法】

個人の身体状況に応じた経路案内及び注意喚起、食事やおみやげの案内

図. 移動支援サービスのイメージ



5. 数値目標と達成時期

サービス利用者:100名以上(うち高齢者や障がい者50名以上)

移動機会の増加: 60%以上増加

1. 協議会名称 いわきユビキタス社会化推進協議会

代表者 会長 大場敏宣

2. 実施箇所 福島県いわき市

3. テーマ

安全な観光まちづくりの推進

4. 提案内容

①いわき湯本温泉まちあるきナビ

スマートフォンを活用したまちあるき ナビゲーションシステムを開発導入することで、新たな客層の掘り起こしと街の活性化を進める。健康者を対象とするだけでなく、湯本駅前地区については車椅子利用の方もまちあるきが楽しめるよう、歩道等の段差や勾配、幅などを実測してデータベース化し最適なバリアフリー観光ルートを探索・設定。

②いわき緊急時避難ナビ

被災地であるいわき市全域で、来訪観光客のみならず被災後に数多く転入してきた復興作業関係者の方々、及び広く一般市民にも、地震からの安全度を高めていただくために、いわき市の協力を得て、緊急地震速報を基に最寄りの避難所への経路案内を行う「いわき緊急時避難ナビ」を開発。

③ハワイアンズナビ

いわき市の観光の拠点施設であるスパリゾートハワイアンズにおいて、屋外での施設案内観光ナビゲーションに加え、日帰り観光も可能な最大施設「ウォーターパーク」においてWi-Fiを活用した屋内での避難経路取得から避難に至るまでの流れをシュミレーションする避難実験を実施。

図. 移動支援サービスのイメージ

図.移動支援サービスのイメージ



5. 数値目標と達成時期

サービス利用者 1200名 達成時期 2013年3月末まで。

各協議会からの提案概要(渋川地区)

資料 1 (3)

1. 協議会名称 渋川地区観光特別宣伝協議会

代表者 会長 大森 隆博

2. 実施箇所 群馬県渋川市

3. テーマ

移動制約者に感動を与えるまち歩き誘導、多言語対応によるインバウンド振興・

4. 提案内容

【情報提供の対象者】

高齢者、車椅子使用者、来湯者(外国人、初めての方、他)

【提供するサービス内容】

まち歩きルート推奨、まち歩きガイド、周辺観光情報の表示、施設検索及びガイド

【場所情報コードの活用方法】

場所情報コードは利用しない(GPS機能等を用いた、地図画面、ARカメラ画面、音声再生)

【歩行者の位置特定方法】

スマートフォン向けのオリジナルアプリをプラットフォームに、GPS機能(衛星測位機能)を核として、ネットワーク測位機能でこれを補完し、歩行者の現在位置を特定する。Wifi測位やIMES等はいない。

【歩行空間ネットワークデータの活用方法】

移動制約者が歩くべき「まち歩き観光ルート」を複数ルート作成

図. 移動支援サービスのイメージ



5. 数値目標と達成時期

サービス利用者: 600名

移動制約者のまち歩き参加機会の増加: 移動制約宿泊者の30%以上の参加を目標

1. 協議会名称 伊勢・旅バリフォン開発協議会

代表者 会長 中村 元

2. 実施箇所 三重県伊勢市

3. テーマ

伊勢神宮を訪れるこの地域に不案内なさまざまなタイプの観光客の道案内

4. 提案内容

【情報提供の対象者】

歩行困難者(高齢者、車椅子使用者)、歩行弱者(ベビーカー、幼児、妊婦)、聴覚・言語障害者

【提供するサービス内容】

パーソナルバリアフリー基準に基づく経路案内、施設、トイレ、交通関係のバリア対応状況情報の提供

【場所情報コードの活用方法】

現在地から目的地までのバリアフリールートや各施設のバリア情報などの提供に活用

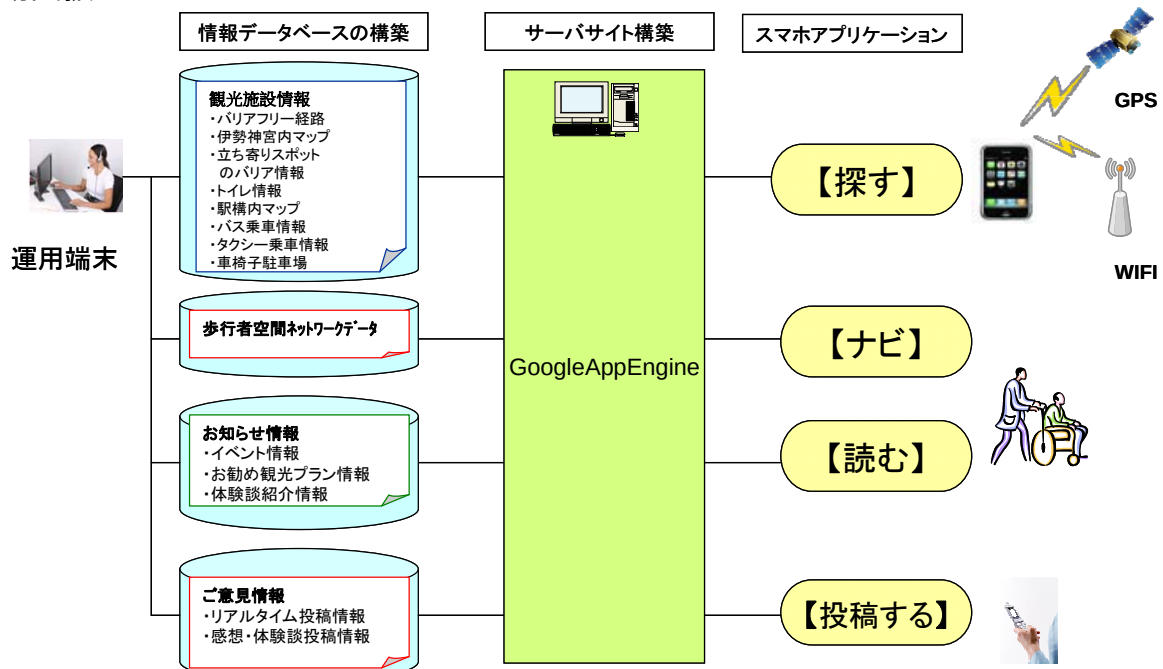
【歩行者の位置特定方法】

GPSから発信される位置情報を携帯端末で受信

【歩行空間ネットワークデータの活用方法】

段差、幅員等のバリア情報を利用し、バリアフリールート検索に活用

図. 移動支援サービスのイメージ



5. 数値目標と達成時期

サービス利用者: 1000名以上(うち、高齢者100名以上)

移動機会の増加: 20%以上増加 移動時間の短縮: 10%減少

1. 協議会名称 明日香まると博物館づくり推進協議会
代表者 会長 森川裕一

2. 実施箇所 奈良県高市郡明日香村

3. テーマ

古都明日香の史跡を巡る高齢者・障がい者・観光来訪者等を対象とした歩行移動支援サービスの実現

4. 提案内容

【情報提供の対象者】

高齢者、車椅子利用者、観光客、ベビーカー利用者

【提供するサービス内容】

主要施設のバリアフリー情報の提供、トイレ・休憩施設の案内、史跡・寺社・博物館等の観光施設の案内、食事場所・特産品販売・宿泊等サービス施設の案内、バリアフリー経路案内、現在地の近傍施設の検索・案内、交通機関の案内等

【場所情報コードの活用方法】

歩行空間ネットワークデータを作成し、指定されたフォーマットに従い場所情報コードを付与

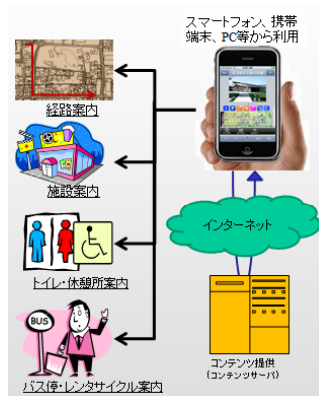
【歩行者の位置特定方法】

主にスマートフォンの利用を想定し、屋外での測位システムとしてGPS、GPS測位ができない屋内での測位精度補完としてWiFi測位、交通施設にucodeQRの貼り付け

【歩行空間ネットワークデータの活用方法】

対象エリアの歩行者が利用するルートにおいて歩行空間ネットワークデータを構築

図. 移動支援サービスのイメージ



目的施設を選択



施設情報の表示



経路・通行注意箇所の表示

5. 数値目標と達成時期(2013年2月時点)

サービス利用者: 500名以上 (うち、60歳以上の高齢者が10%以上)

【アンケート回答率】

移動機会の増加: 60%以上 目的地へ容易に到達: 60%以上

移動の利便性・安全性向上: 60%以上 来訪の増加: 50%以上 システムの運用継続希望: 80%以上